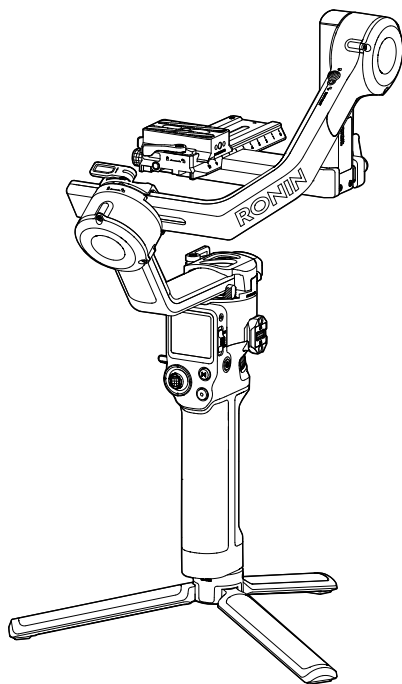


dji RS 3 PRO

ユーザーマニュアル

v1.0 2022.06



🔍 キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

👉 トピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

🖨️ 本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠️ 警告

⚠️ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

使用を開始する前に

DJI™ RS 3 Proを安全に操作し、活用していただくため、以下の資料をご用意しています。

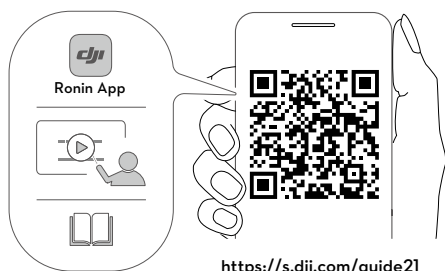
DJI RS 3 Pro クイックスタートガイド

DJI RS 3 Pro ユーザーマニュアル

DJI RS 3 Pro 安全ガイドライン

クイックスタートガイドやユーザーマニュアルの全体を読み、DJIの公式サイト（<https://www.dji.com/rs-3-pro>）の製品ページにあるチュートリアルビデオを視聴してください。安全ガイドラインを読んで、法的権利および責任を正しく理解してください。本製品の使用準備、メンテナンス、使用で不明な点や問題がある場合は、DJIまたはDJIの正規代理店にお問い合わせください。

Roninアプリをダウンロードしてチュートリアルビデオを視聴



iOS 11.0以降



Android 7.0以降

目次

本マニュアルの使用方法	2
凡例	2
使用を開始する前に	2
Roninアプリをダウンロードしてチュートリアルビデオを視聴	2
はじめに	4
DJI RS 3 Proの各部名称	5
初めてので使用にあたって	6
バッテリーの充電	6
延長用グリップ／三脚の取り付け	6
アクティベーション	7
ファームウェア更新	7
カメラの取り付け	8
バランス調整	11
ブリーフケースモード	14
オートチューン	14
操作	15
ボタンとポートの機能	15
タッチ画面	17
Ronin アプリの設定	22
BG30グリップおよび内蔵バッテリー	33
操作モード	36
メンテナンス	36
仕様	37

はじめに

DJI RS 3 Proは、一眼レフカメラおよび小型シネマカメラ用に特別に設計された、プロ仕様の片手持ち3軸ジンバルです。本製品は、24~70 mm F2.8 レンズを使用する主要なカメラに対応し、積載量（試験値）は4.5 kgまで対応しています。DJI RS 3 Proは、第3世代RS安定化アルゴリズムによって強化されたジンバル性能を誇ります。

自動軸ロックという新機能が加わり、DJI RS 3 Proは素早く簡単に取り付けと、バランス調整、保管が可能となります。1.8インチのOLEDフルカラータッチ画面が搭載され、画面上で、ジンバルのキャリブレーション操作やパラメーター設定が可能です。搭載されているボタンを使い、ジンバルの制御や写真・動画の撮影操作、カメラのフォーカス調整を行うことができます。RS 3 Proは、デュアルモードBluetoothに対応し、ワイヤレスでのシャッター操作が可能です。RSA/NATOポートが搭載され、DJI R フォーカスホイール、DJI RS ブリーフケースハンドル、DJI R ツイストグリップ デュアルハンドルに対応します。この取り外し可能なグリップには容量1950 mAhのバッテリーが内蔵され、そのスタンバイ時間は最大12時間です。*

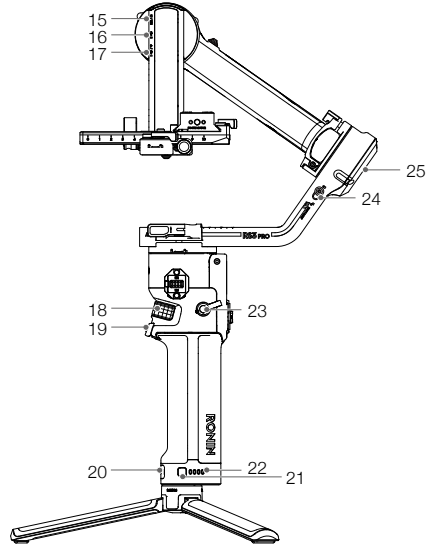
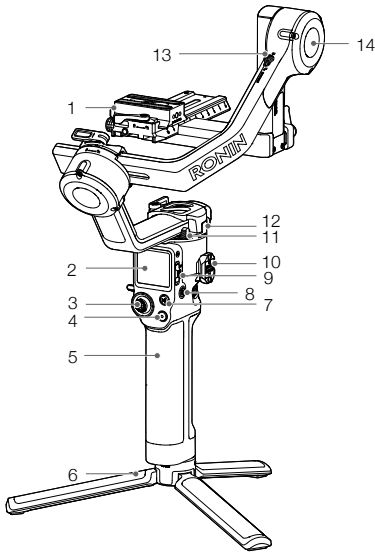
Roninアプリに接続すると、ジンバル制御とパラメーター設定を簡単に行うことができます。DJI Ronin 映像トランスミッターを取り付けると、ユーザーは、ActiveTrack Proを使って被写体を自動でトラッキングしながら、滑らかな映像を撮影できます。

RS 3 Proは、DJI LiDAR レンジファインダー (RS)とDJI RS フォーカスマーター (2022)を使用してマニュアルレンズを使用したオートフォーカスが可能です。

DJI 映像トランスミッターを取り付けると、RS 3 ProはDJI Master WheelsやDJI Force Proを使用し、ジンバルやカメラを制御できます。DJI 遠隔モニターやRonin 4D ハンドグリップをRS 3 Proに接続すると、モニタリングや遠隔操作を行えます。

*機材が水平に静置され、ジンバルのバランスが取れ、3軸がアクティブ状態で、バッテリーのみでジンバルに電源供給している時に測定。

DJI RS 3 Proの各部名称



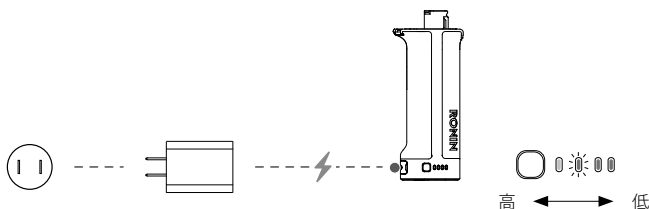
- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 上部/下部クイックリリースプレート | 15. RSSカメラ制御ポート (USB-C) |
| 2. 1.8インチ OLED フルカラータッチ画面 | 16. フォーカスマーターポート (USB-C) |
| 3. ジョイスティック | 17. 映像伝送/LiDAR レンジファインダーポート (USB-C) |
| 4. カメラ制御ボタン | 18. フロントダイヤル |
| 5. BG30グリップ (バッテリー内蔵、1/4-20ねじ穴付き) | 19. トリガー |
| 6. 延長用グリップ/三脚 | 20. 電源ポート (USB-C) |
| 7. Mボタン | 21. バッテリー残量ボタン |
| 8. 電源ボタン | 22. バッテリー残量インジケータ |
| 9. ジンバルモードスイッチ | 23. グリップレバー/安全ボタン |
| 10. Roninシリーズアクセサリ (RSA)/NATOポート | 24. ロール軸ロック |
| 11. パン軸ロック | 25. ロール軸モーター |
| 12. パン軸モーター | |
| 13. チルト軸ロック | |
| 14. チルト軸モーター | |

初めてのご使用にあたって

バッテリーの充電

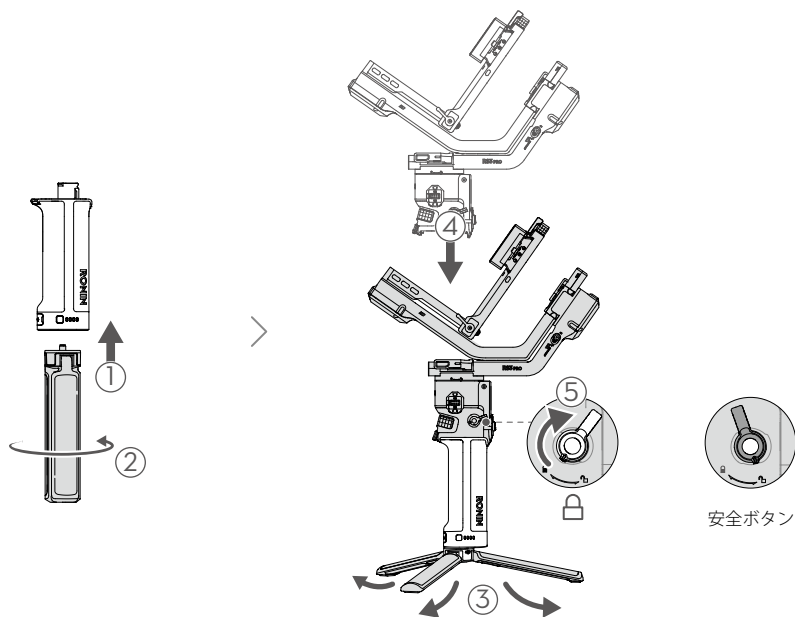
初めて使用する前に、充電ケーブル（付属）とUSBアダプター（別売）を使用して、電源ポートからバッテリーグリップを充電してください。QC 2.0（Quick Charge 2.0）およびPD急速充電プロトコル（最大24 W）に対応したUSBアダプターを使用することをお勧めします。

充電中および使用中は、バッテリー残量インジケータがバッテリー残量を示します。使用していない時にバッテリー残量を確認するには、バッテリー残量ボタンを押します。



延長用グリップ／三脚の取り付け

1. 延長用グリップ／三脚をグリップに取り付け①、締め②、三脚を展開③します。
2. ④で示すように、グリップをジンバルに挿入します。グリップレバーがロック解除位置にあることを確認し、グリップを取り付けたら、ロック位置に切り替えます⑤。



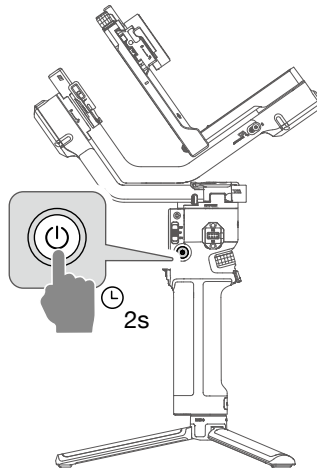
グリップを取り外すには、レバーをロック解除位置に切り替え、安全ボタンを押したまま、グリップをジンバルから引き離します。

アクティベーション

DJI RS 3 ProではRoninアプリを使用してアクティベーションを行う必要があります。RS 3 Proのアクティベーションは次の手順に従ってください。

1. 電源ボタンを長押ししてRS 3 Proの電源を入れ、タッチ画面で言語を選択します。
2. 画面のQRコードをスキャンしてRoninアプリをダウンロードします。アクティベーションの手順をスキップすると、ジンバルは自動的にロック解除され、画面上に指示が表示されます。
3. スマートフォンのBluetoothを有効にします。Roninアプリを起動し、DJIアカウントでログインします。DJI RS 3 Proを選択し、デフォルトパスワード12345678を入力し、指示に従ってジンバルをアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。アクティベーションが正常に終了するとジンバルは自動的にロック解除されます。

⚠ DJI RS 3 Proは、最大5回までは、アクティベーションせずに使用することができます。それ以降の使用にはアクティベーションが必要となります。



ファームウェア更新

新しいファームウェアが利用可能になると、Roninアプリから通知されます。画面上の指示に従ってファームウェアを更新してください。ファームウェア更新中は、ジンバルの電源を切ったり、アプリを終了したりしないでください。

更新が正常に終了するとRoninアプリにプロンプトが表示されます。更新に失敗した場合は、ジンバルとRoninアプリを再起動し、再試行してください。

- ⚠
- 更新前に、ジンバルに十分な電力が供給されていることを必ず確認してください。
 - 更新中はスマートフォンがインターネットに接続されていることを確認してください。
 - 更新中はジンバルの電源を切らないでください。
 - 更新が開始されると軸ロックは自動的にロックされます。処理中に軸ロックがロックされたりロック解除されたりすることがありますが、これは正常な動作です。


カメラの取り付け

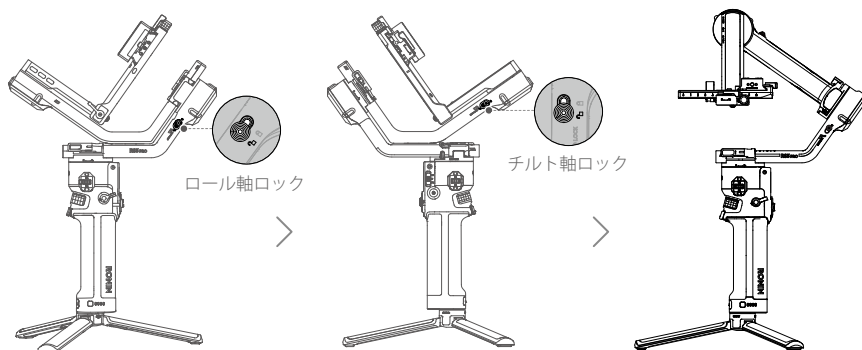
対応するカメラとレンズ

DJI RS 3 Proは、4.5 kgのペイロードに対応する厳密なテスト過程を経ています。カメラ、レンズ、その他のアクセサリーの総重量が4.5 kg以下であることを確認してください。最新のRoninシリーズ互換性ガイドについては、DJIの公式Webサイト (<https://www.dji.com/support/compatibility>)を参照してください。

カメラの取り付け

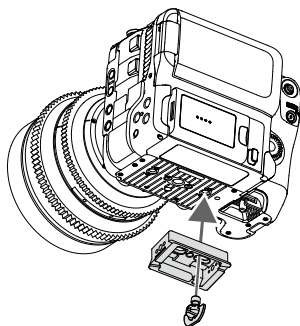
DJI RS 3 Proにカメラを取り付ける前に、必ずカメラの準備を行ってください。レンズキャップを取り外し、カメラのバッテリーとメモリーカードが挿入されていることを確認してください。

カメラを取り付ける前に、DJI RS 3 Proの電源がオフになっているか、スリープモードになっていることを確認してください。チルト軸ロックとロール軸ロックのレバーをロック解除位置に切り替え、のようにジンバルの位置を調整します。調整後、これら2つのロックをロック位置に切り替えます。



1. 上部クイックリリース プレートの取り付け

ねじを締めて、上部クイックリリース プレートをカメラに取り付けます。

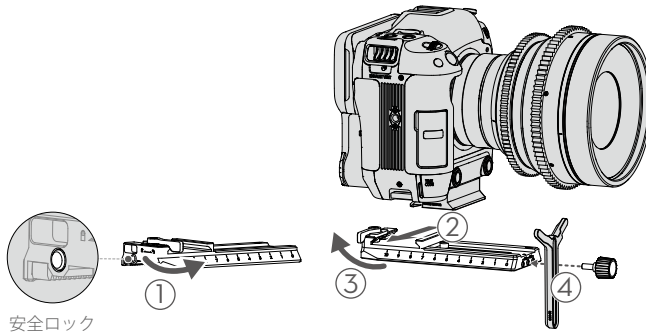


2. 下部クイックリリース プレートとレンズ固定サポートの取り付け

下部クイックリリース プレートのレバーをロック解除位置に切り替え①、カメラを挿入します②。カメラを固定したら、レバーをロック位置に切り替えます③。レンズ固定サポートを下部クイックリリース プレートへ取り付けます④。

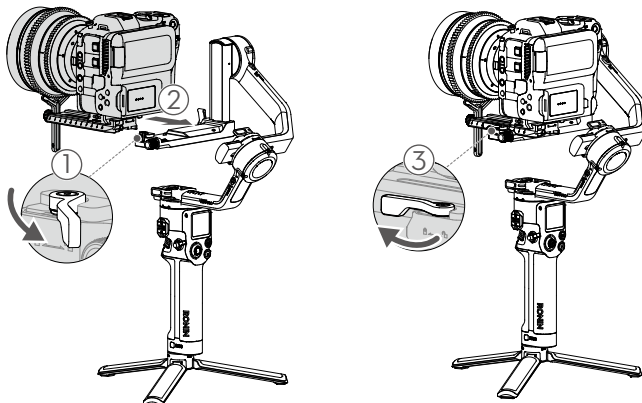
長い、または重いレンズを使用する場合は、レンズ固定サポートの使用をお勧めします。また、SuperSmoothモードを有効にする場合、その前に必ずレンズ固定サポートを取り付けてください。

下部クイックリリース プレートからカメラを取り外すには、レバーをロック解除位置に切り替え、レバーの横にある安全ロックを押しながらカメラを取り外します。

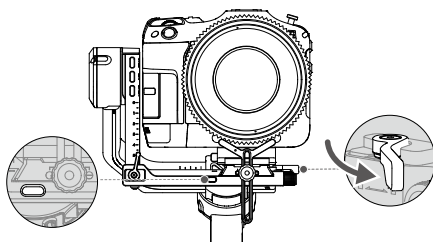


3. ジンバルへのカメラ取り付け

カメラマウントプレートのレバーをロック解除位置に切り替え①、下部クイックリリース プレートを挿入します②。カメラのバランスが大まかにとれたら、レバーをロック位置に切り替えます③。



下部クイックリリース プレートを取り外すには、カメラマウントプレートのレバーをロック解除位置に切り替え、マウントプレートの安全ロックを押しながら下部クイックリリース プレートを取り外します。



4. カメラへの接続

DJI RS 3 ProはBluetoothを使用したワイヤレスのカメラ接続に対応しているので、有線を使用せずにカメラを制御できます。タッチ画面がホーム画面を表示している状態でタッチ画面を上から下にスワイプし、コントロールセンターを表示させます。Bluetoothアイコンをタップし、[接続]をタップするとジンバル&カメラはペアリングを開始します。正常に接続されると、Bluetoothアイコンは青色に変わります。

Sonyシリーズのカメラを使用する場合、ジンバルと接続する前に、Bluetoothを介した遠隔操作機能を有効にする必要があります。

Canonシリーズのカメラを使用する場合、ジンバルと接続する前に、写真または録画モードに対する遠隔操作モードを有効にする必要があります。

BMPCC (Blackmagic Pocket Cinema Camera) シリーズのカメラでは、ジンバルへの接続前にパスワードが要求されます。

Bluetooth接続使用時の詳細なカメラ設定については、Roninシリーズ互換性ガイドを参照してください。

Bluetoothに対応していないカメラについては、カメラの種類に応じて適切なカメラ制御ケーブルを選択してください。ケーブルの一方の端をカメラに差し込み、もう一方の端をジンバルのRSSカメラ制御ポートに差し込みます。

-
- ⚠️ 対応するカメラモデルの詳細については、Roninシリーズ互換性ガイドを参照してください。
 - 一部のカメラでは制御ケーブルを別途購入する必要があります。
-

バランス調整

DJI RS 3 Proを快適にご使用いただくためには、適切なバランス調整が欠かせません。適切なバランスは、素早い動きまたは加速が必要なDJI RS 3 Proでの撮影に不可欠であり、バッテリー駆動の時間も長くなります。DJI RS 3 Proの電源を入れてソフトウェアをセットアップする前に、3軸のバランスを適切に調整する必要があります。

バランス調整を行う前に

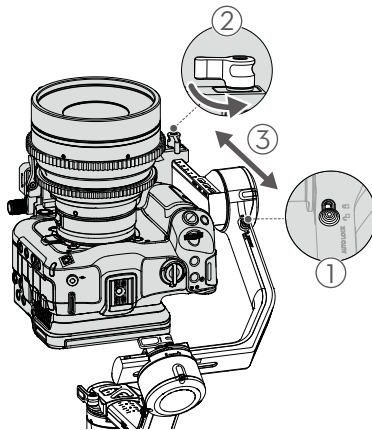
1. カメラをジンバルに取り付けてバランス調整する前に、アクセサリとケーブルをすべて接続して、カメラの設定を完了しておく必要があります。カメラにレンズキャップが付いている場合、バランス調整の前に必ず取り外してください。光学ズームレンズを使用する場合、バランス調整前に必ずカメラの電源を入れてください。可変焦点レンズを使用する場合、バランス調整前に焦点距離を選択してください。
2. ジンバルのバランス調整は、必ずすべてのアクセサリを取り付けた状態で行ってください。取り付けの手順については、対応するアクセサリのユーザーガイドを参照してください。
3. バランス調整をする前に、DJI RS 3 Proの電源がオフになっているか、スリープモードになっていることを確認してください。

バランス調整の手順

バランス調整の手順は、アクセサリが取り付けられている場合でも、取り付けられていない場合でも同じです。

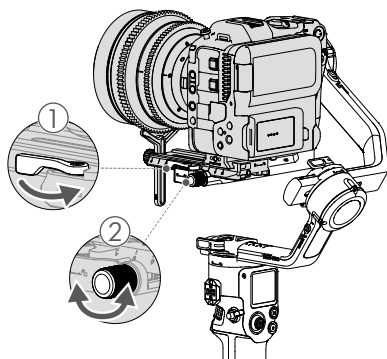
1. 垂直チルトのバランス調整

- a. チルト軸①のロックを解除し、マウントプレートのノブ②を緩めます。
- b. チルト軸を回し、カメラレンズを上に向けます。カメラの上下に重さが偏っていないかどうかを確認します。カメラの上方に偏っている場合は、カメラを後方に動かします③。カメラの下方に偏っている場合は、カメラを前方に動かします③。
- c. カメラを上に向けた状態で、マウントプレートのノブを締めます。カメラが上向きで安定している場合は、垂直チルトのバランスが取れています。



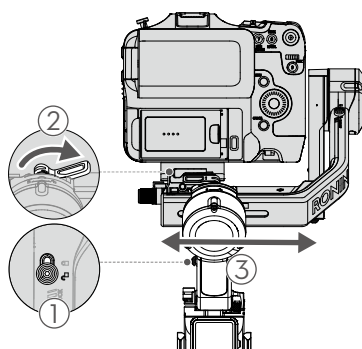
2. チルト軸の奥行きバランス調整

- チルト軸を回し、カメラレンズを前に向けます。レバーをロック解除の位置に切り替えます①。
- カメラの重量バランスが前後に偏っていないことを確認します。前方に偏っている場合は、ノブ②を回してカメラを後方に動かします。後方に偏っている場合は、カメラを前方に動かします。
- レバーをロック位置に切り替えます。カメラを上下に45°傾けても安定している場合は、チルト軸のバランスが取れています。
- チルト軸のロックを固定します。



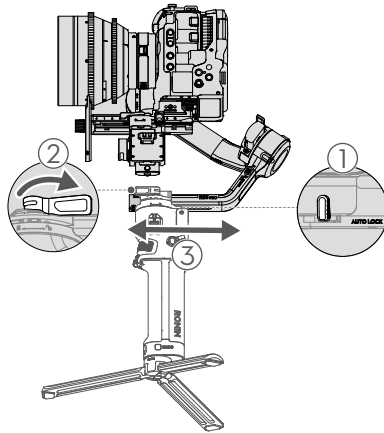
3. ロール軸のバランス調整

- ロール軸のロックを解除します①。ロール軸アームのレバーをロック解除の位置に切り替えます②。
- ロールモーターが揺れる方向を確認します。カメラが左に回転する場合は、カメラを右に移動します③。カメラが右に回転する場合は、カメラを左に移動します③。
- ロール軸アームのレバーをロック位置に切り替えます。カメラが安定している場合は、ロール軸のバランスが取れています。
- ロール軸のロックを固定します。



4. パン軸のバランス調整

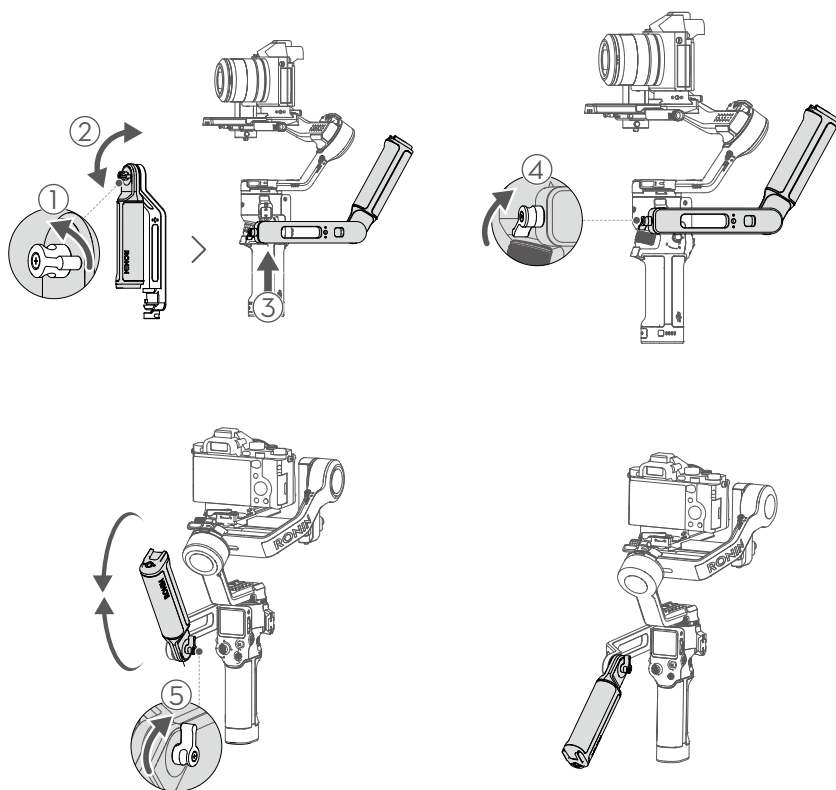
- パン軸のロックを解除します①。パン軸アームのレバーをロック解除の位置に切り替えます②。
- グリップを持ってDJI RS 3 Proを前方に傾け、パン軸アームが自身と平行になるまで回転させます。
- パン軸の動きを確認してください。カメラレンズが左に回転する場合は、パン軸アームを右に押します③。カメラレンズが右に回転する場合は、パン軸アームを左に押します③。
- パン軸アームのレバーをロック位置に切り替えます。グリップを傾け、パン軸が回転してもカメラが安定している場合は、パン軸のバランスが取れています。



-
- ⚠
- 長さのあるカメラシステムを取り付ける場合は、DJI R ロール軸カウンターウェイトセットを使用する必要があります。カウンターウェイトセットは公式DJIストアでご購入いただけます。
 - パン軸モーターとロール軸モーターのレバーの締まりが緩い場合は、レバーを外側に引っ張った後、レバーを再びロック位置からロック解除位置に回し、締まり具合を調整することができます。
-


ブリーフケースモード

ブリーフケースハンドルは、バランス調整後にブリーフケースモードに切り替えるときに使用します。ブリーフケースハンドルの角度はノブで調整できます。内蔵コールドシューマウントや1/4-20の取り付け穴を使用して、撮影を補助するための外部モニターを取り付けることができ、ローアングル撮影でのカメラワークをより直感的に行えます。



オートチューン

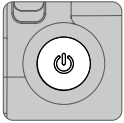
オートチューンは、ジンバルが最適な性能を発揮できるように、ペイロードに合わせて、モーターの適切な剛性を提供します。オートチューン後に、ジンバルが使用可能になります。

電源ボタンを長押ししてジンバルの電源を入れるか、1回または2回押してスリープモードを解除します。その後、Mボタンとトリガーを同時に長押しすると、オートチューンが開始します。タッチ画面のオートチューンアイコンをタップして、オートチューンを有効にすることもできます。

- ⚠** ジンバルを安定した平らな面に置いてください。オートチューン中はジンバルを動かさないでください。オートチューン中に、ジンバルが揺れたり、音がすることがありますが、これは正常です。

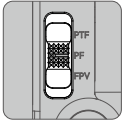
操作

ボタンとポートの機能



電源ボタン

長押しすると、電源をオン／オフします。1回または2回押しすと、スリープモードを開始／解除します。



ジンバルモード スイッチ

このスイッチを切り替えて、ジンバルモードをPF、PTF、FPV間で切り替えます。



カメラ制御ボタン

カメラとの接続後に、半押ししてオートフォーカスにします。1回押しすと、録画を開始／停止します。長押しすると写真を撮影します。

⚠ 対応カメラ機能の詳細は、Roninシリーズ互換性ガイドを確認してください。

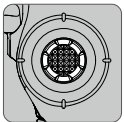


Mボタン

デフォルトでは、1回押しすと画面にロックがかかり、再度押しすとロックを解除します。タッチ画面から設定の変更ができます。

押ししている間は、スポーツモードで動作します。Mボタンを長押しし、トリガーを2回押しすと、Mボタンから指を離しても、スポーツモードの状態が持続します。再度同じ操作をすると、スポーツモードを終了します。スポーツモードでは、ジンバルのフォロー速度が大幅に加速します。被写体が高速で動くシナリオでの撮影に適しています。

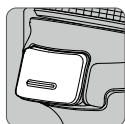
トリガーと一緒にMボタンを長押しすると、オートチューンが開始します。オートチューンが開始したら、長押しするのをやめてください。



ジョイスティック

上または下に倒してチルト軸の動きを制御します（デフォルト設定）。左または右に倒してパン軸の動きを制御します（デフォルト設定）。

⚠ ジョイスティックの制御モードと方向はRoninアプリで設定できます。



トリガー

長押ししている間、ロックモードに入ります。タッチ画面をタップすると、トリガーから指を離しても、ロックモードの状態が持続します。

2回押しと、ジンバルを再センタリングします。

3回押しと、ジンバルが180°回転し、カメラがユーザーの方を向きます（セルフイーモード）。

1回押しと、アクティブトラックが開始されます（DJI LiDAR レンジファインダー（RS）またはDJI Ronin 映像トランスミッターを有効にする必要があります）。



フロントダイヤル

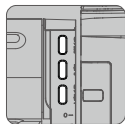
デフォルトでは、ケーブル接続した上で、フォーカス/ズームを制御する設定になっていますが、設定はタッチ画面から変更できます。

⚠ 対応機能の詳細は、Roninシリーズ互換性ガイドを確認してください。



バッテリー残量ボタン

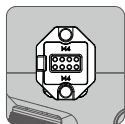
ボタンを1回押ししてバッテリー残量を確認します。



RSSカメラ制御ポート：カメラ接続用。

フォーカスモーターポート：フォーカスモーター接続用。

映像伝送/LiDARレンジファインダーポート：DJI 映像トランスミッター、DJI Ronin 映像トランスミッター、DJI LiDAR レンジファインダー接続用。



Roninシリーズ アクセサリー (RSA)/NATOポート

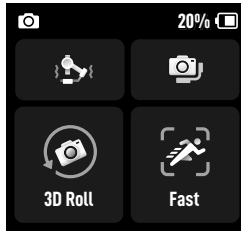
DJI R フォーカスホイール、DJI R ツイストグリップ デュアルハンドル、DJI RS プリーフケース ハンドル接続用。

自動軸ロック



自動軸ロックは、電源のオン/オフ時に折りたたんでロックする、また、RS 3 Proがスリープモードを開始/終了時に再センタリングしてロックするように設定されています。軸ロックは、電源を入ると自動的にロック解除され、電源オン時に電源ボタンを1回か2回押しとロックされます。軸ロックの動作は、タッチ画面のメニューで設定できます。軸ロックは手動でロック/ロック解除することもできます。

タッチ画面

ホーム



カメラステータス：カメラ制御ケーブルまたはBluetoothが接続されていることを示します。


バッテリー残量：ジンバルの現在のバッテリー残量を表示します。アイコンは、通常の充電器でバッテリーが充電されたことを示します。アイコンは、急速充電器でバッテリーが充電されたことを示します。

オートチューン

バランス調整後、オートチューンを使用します。剛性値は、ジンバルのペイロードに応じて決定されます。オートチューンを使用して、バランス調整後に剛性値を自動的に取得します。

オートチューンの画面に表示される3つの値は、3軸の剛性を示します。ノーマルモードまたはSuperSmoothモードを選択します。ノーマルモードはほとんどのシナリオに対応し、SuperSmoothモードは速い動きのあるシーンに適しています。オートチューンの前にSuperSmoothを使用する場合は、レンズ固定サポートを使用することをお勧めします。オートチューンのプロセスは約15～30秒かかります。

モーターの剛性を調整することで、モーターが各軸の重量に対応してバランスをとる際にかかる出力を微調整できます。安定性が常に確保されるよう、十分な余裕を持たせてください。剛性値が高すぎるとジンバルが揺れ、値が低すぎるとジンバルのパフォーマンスに影響が出ます。

 カメラのバランス調整後、レンズの焦点距離を変更後、またはレンズ交換後にジンバルが揺れる場合は、オートチューンを使用してください。

バランス状態

ステータスバーが緑色の場合、ジンバルが均衡のとれた状態であることを示します。ステータスバーが黄色の場合、ジンバルが少し均衡が取れていないことを示します。ステータスバーが赤色の場合、ジンバルが極度に均衡が取れていないことを示します。この表示が出たときは、対応する軸を再度バランス調整してください。パン軸のバランス状態を確認するには、ジンバルを左右に15°傾けてステータスバーを確認してください。

フォローモード

デフォルト状態でのフォローモードでは、ジンバルモードスイッチを使用して、PF、PTF、FPVを切り替えることができます。チルト軸モーターはチルト軸が、パン軸モーターはパン軸が、ロール軸モーターはロール軸がフォローするように制御します。

PF：パンフォロー。パン軸のみがグリップの動きに従います。ウォークスルーショット（ドアや門などを通り抜けながら撮影）やアークショット、左右の動きの多いシナリオでの撮影に適しています。

PTF：パン&チルトフォロー。パンとチルトの両方の軸がグリップの動きに従います。上下の動きを含むシナリオや傾斜のあるシナリオに適しています。

FPV：パン、チルト、ロールフォロー。3つの軸全てがグリップの動きに従います。カメラを回転させながら、またはローアングルから撮影するシナリオに適しています。FPVモードでは、3Dロール360、ポートレート、カスタムモードから選択します。

3Dロール360：カメラを360°回転させながら映像を撮影できるようにします。チルト軸が90°回転し、カメラレンズが上を向きます。ジョイスティックを左または右に倒すと、3Dロール360を開始します。ジョイスティックを左または右にすばやく2回連続して倒すと、自動回転が開始されます。自動回転中に、トリガーを2回あるいは3回押しとカメラは停止します。

ポートレート：ポートレートモード（縦位置）で撮影できるようにします。チルト軸が90°回転することで、カメラレンズが上を向き、同時にパン軸も90°回転し、縦位置で撮影します。

カスタム：必要に応じて、任意の軸フォローを有効または無効にします。3軸共に無効にした場合は、ロックモードが有効になります。ロックモードでは、3軸のすべてがグリップの動きに従いません。

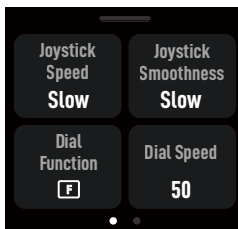
⚠️ ポートレートモードでの撮影では、ジンバルを垂直にした状態で持ってください。ポートレートモード中、ジョイスティックでジンバルの動きを制御することはできません。



フォロー速度

タップしてフォロー速度を選択します。高速、中速、低速、カスタムから選択ができます。速度をカスタマイズするには、タッチ画面の上部右にあるアイコンをタップしてください。

上にスライド：ジンバル設定画面



画面を下から上にスライドすると、ジンバル設定画面に入ります。

ジョイスティック速度：ユーザーがジンバルに対するジョイスティックの速度を制御できます。高速、中速、低速、カスタムから選択ができます。速度をカスタマイズするには、タッチ画面の上部右にあるアイコンをタップしてください。値が大きいほど、ジョイスティック速度が速くなります。

ジョイスティック スムージング：ユーザーがジンバルの感度を制御できます。スムージング値が小さいほど、ジンバルの感度は上がります。

ダイヤル機能：フロントダイヤルの機能を設定できます。フォーカスモーター、ケーブル駆動フォーカス/ズーム、ISO、絞り、シャッター速度、ロール軸、パン軸、チルト軸の制御を選択できます。

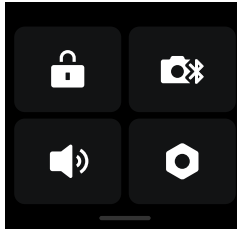
ダイヤル速度：フロントダイヤルに設定した機能の応答速度を設定できます。

ダイヤル スムージング：スムージング値が大きくなるほど、該当する機能の変更が緩やかになります。

リバースダイヤル：ダイヤルの方向を反転方向に設定できます。

Mボタン：画面ロック、写真撮影、LiDAR AF/MF（DJI LiDAR レンジファインダー取り付け時のオートフォーカス/マニュアルフォーカス切り替え）といった機能を設定できます。

下にスライド：コントロールセンター画面



画面上部から下にスライドしてコントロールセンター画面を表示させます。

画面ロック

画面ロックアイコンをタップすると、タッチ画面がロックされ、誤操作を防止します。画面ロック有効後、タッチ画面を下から上にスライドすると、ロック解除します。

Bluetooth

アイコンをタップすると、Bluetooth経由でカメラに接続します。[接続]をタップして、ジンバルとカメラのBluetoothをペアリングします。正常に接続されると、アイコンが青色に変わります。

⚠ ジンバルが一度に接続できるカメラは、1台のみです。

サイレントモード

有効にすると、警告音を含む音を消音します。モーター音と軸ロックの音は、ミュートできません。

システム設定

セルフイーの無効化：誤ってセルフイーモードになって録画が中断されるのを防ぎます。無効にするとトリガーボタンを3回押したときにセルフイーモードに入らなくなります。

オービット フォロー：アークショット（被写体を中心に周回）撮影時に有効にするとスムーズな動きを得られます。

自動ロック：電源オン/オフ時に、再センタリング&ロック、折りたたみ&ロック、または動作なしに設定することができます。スリープモードの開始/終了の際に、再センタリング&ロック、動作なしに設定することができます。

プッシュモード：チルト軸とパン軸を手動で制御することができます。

水平キャリブレーション：ジンバルが安定しているのに、ジンバルが水平ではない場合に使用します。問題が解決しない場合には「手動での調整」を使用します。

フォーカスマーター エンドポイント：フォーカスマーターのキャリブレーションが選択でき、フォーカスマーターのエンドポイントを手動で設定または無効にできます。

ジンバル自動確認：タップしてジンバルのステータス情報を分析して出力します。

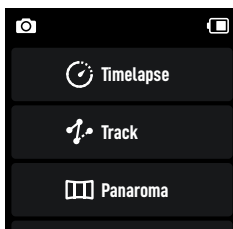
パラメーターの復元：タップするとジンバルのパラメーターとBluetoothパスワードをデフォルト設定に復元します。

言語：画面上の言語を、簡体中国語、英語、繁体中国語、日本語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語（ブラジル）、スペイン語、タイ語、ロシア語から選択します。

デバイス情報：SN（シリアル番号）、名称、Bluetooth情報を表示します。

ファームウェア：ジンバルや装着したアクセサリーのファームウェアのバージョンを表示します。

左にスライド：作成画面



画面の右端から左にスライドすると、作成画面に入ります。

タイムラプス

タイムラプスでは、DJI RS 3 Proはカメラを起動し、設定した時間間隔で静止画を撮影し、完了すると自動的に停止します。タイムラプスの時間と時間間隔を設定することができ、これにより、DJI RS 3 Proが必要とする正確な写真枚数を計算でき、フレームレートを設定すると動画の時間を計算できます。

モーションラプスでは、最大5点のウェイポイント（経由点）を設定でき、タイムラプス撮影中にカメラは移動しながら撮影します。

トラッキング

トラッキングは、最大10点までウェイポイントを設定し、動画を撮影するようにします。ジンバルを手動で動かすか、ジョイスティックを使用して、ウェイポイントを選択する必要があります。「+」をタップしてウェイポイントを追加します。

ウェイポイントを追加すると、ウェイポイント設定画面で時間と滞在時間を設定できます。ウェイポイントの位置をリセットすることもできます。時間は、ジンバルが1つのウェイポイントから次のウェイポイントまで移動する際の時間を示します。滞在時間は、次のウェイポイントに移動する前に、ウェイポイントでジンバルがどのくらいの時間静止するかを示します。

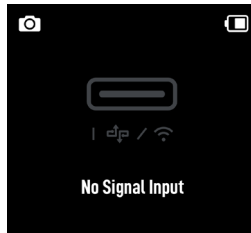
パノラマ

パノラマでは、設定に基づいた精密な制御で、相互につなが合わせることで複数の写真を撮影することができます。その後、画像処理ソフトウェアを使用してパノラマを生成できます。3×3または180°パノラマを選択時、カメラは設定範囲に基づいて、相互につなが合わせることで

きる複数の写真を撮影します。720度VRパノラマを作成するときには、センサータイプ、レンズの焦点距離、オーバーラップ、間隔を設定する必要があります。カスタムパノラマを作成するときには、撮影範囲、センサータイプ、レンズの焦点距離、オーバーラップ、間隔を設定する必要があります。

- ⚠ 長時間露光の使用時に映像がぼやけないようにするには、写真の撮影間隔を、シャッター時間よりも1秒長く設定する必要があります。

右ヘスライド：LiDAR／映像伝送画面



画面の左から右ヘスライドすると、LiDAR／映像伝送画面に入ります。

接続されたデバイスがなければ、[入力信号なし]と画面に表示されます。

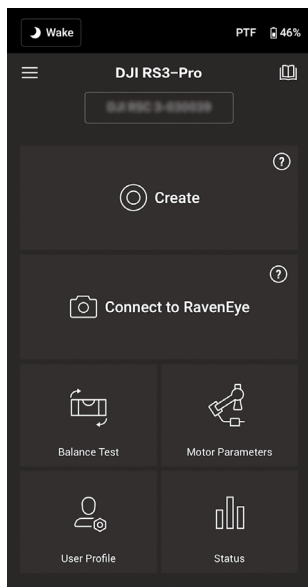
DJI LiDAR レンジファインダーを使用しているときは、オートフォーカスとActiveTrack Proが利用可能です。

DJI Ronin 映像トランスミッター使用時、タッチ画面とRoninアプリでカメラビューが表示されている場合、アクティブトラックと Force Mobileが利用可能です。

- ⚠ 詳細については、DJI LiDAR レンジファインダー (RS)とDJI Ronin 映像トランスミッターのユーザーガイドを参照してください。

Ronin アプリの設定

Roninアプリには、タッチ画面の機能に加え、ジンバルやDJI Ronin 映像トランスミッターの機能も含まれています。以下のスクリーンショットは、本アプリのiOS版のものです。



トップバー

スリープ/スリープ解除：タップすると、スリープモードが開始/解除します。

フォローモード：現在のフォローモードを表示します。

バッテリー残量：ジンバルの現在のバッテリー残量を表示します。

☰ 詳細

設定：利用者のアカウント、言語、クイックスタートガイドを確認できます。

機器リスト：デバイスのSN（シリアル番号）、デバイス名、パスワードを表示します。

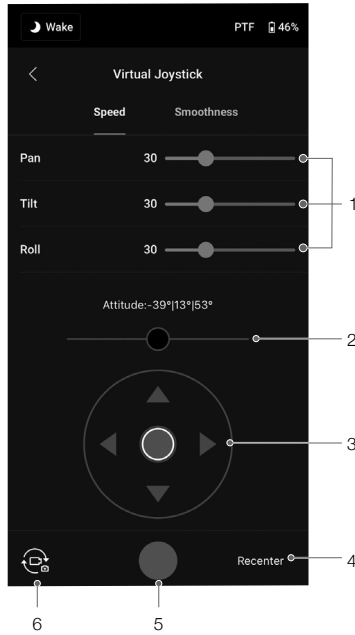
ファームウェア：ファームウェアのバージョンを表示します。

📖 アカデミー

チュートリアルを見て、マニュアルをご一読ください。

作成

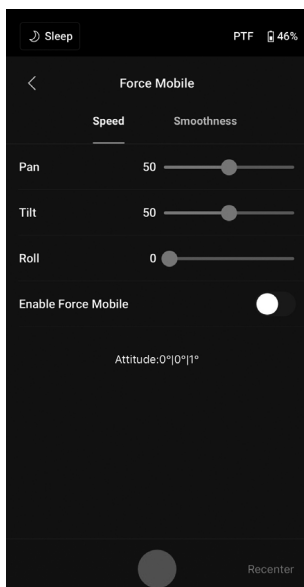
仮想ジョイスティック



アプリの仮想ジョイスティックを使用してジンバルの動きを制御し、撮影します。

1. 制御バー：制御バーを調整して、ジンバルの速度とスムージングを制御します。速度では、ユーザーは遠隔操作での回転速度を調整できます。スムージングではユーザーがジンバルの感度を制御できます。スムージング値が小さいほど、ジンバルの感度は上がります。
2. ロールスティック：仮想ジョイスティックを使用して、ジンバルのロール軸の動作を制御します。
3. パン/チルト スティック：仮想ジョイスティックを使用して、ジンバルのパン軸とチルト軸の動作を制御します。
4. 再センタリング：タップして、ジンバルを再センタリングします。
5. 撮影/録画ボタン：タップして写真を撮影するか動画を撮影します。
6. 写真/動画の切り替え：タップして、写真モードと動画モードを切り替えます。カメラ設定と同一のモードになっていることを必ず確認してください。

Force Mobile



Force Mobileを使用するには、スマートフォンホルダーとスマートフォンが三脚またはハンドルバーに垂直に取り付けられている必要があります。Roninアプリでこの機能を有効にすると、スマートフォンを傾けたり回転させたりしてジンバルの動きを制御できます。

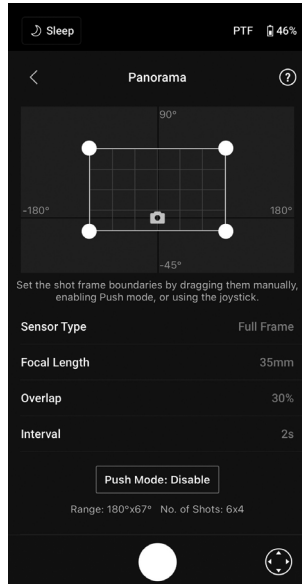
速度は回転速度と角度との関係性を決定します。速度を50に設定すると、ジンバルとスマートフォンの回転角度は1対1になります。ジンバルはスマートフォンと同じ角度で動きます。速度が50未満に設定されている場合、ジンバルの回転はスマートフォンの動きよりも遅くなります。最大速度を50より高い値に設定すると、ジンバルの回転はスマートフォンよりも速くなります。

スムージング：ジンバルの感度を制御できます。スムージング値が小さいほど、ジンバルの感度は上がります。

再センタリング：タップして、ジンバルを再センタリングします。

シャッター／録画ボタン：タップして写真を撮影するか動画を撮影します。

パノラマ



パノラマでは、センサータイプ／レンズ焦点距離／オーバーラップ／間隔に基づいた精密な制御で、相互につなが合わせることでできる一連の写真を撮影できます。

パノラマを使用する前に、対応するカメラ制御ケーブルを使用してカメラとジンバルが接続されていることを確認してください（Bluetooth接続は非対応です）。

オーバーラップはパノラマの生成時にすべての写真のオーバーラップ率を決定します。

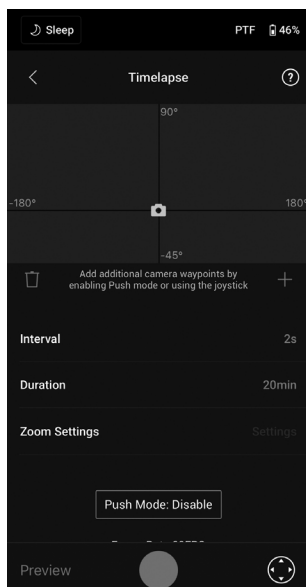
長時間露光の使用時に映像がぼやけないようにするには、写真の撮影間隔を、シャッター時間よりも1秒長く設定する必要があります。

カメラの設定を確認したら、グリッドマップ上の白い点をドラッグするか、ジンバルを手動で調整するか、仮想ジョイスティックを使用して、パノラマ範囲を設定できます。

パノラマの構成に必要なエンドポイントとショットでカバーされる全範囲がグリッドマップ上に表示されます。パノラマのチルト軸の範囲は、撮影ショットにジンバルが映ることがないように、 -45° ～ $+90^{\circ}$ で、一方パン軸では 360° 完全に回転して撮影できます。

シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

タイムラプス



タイムラプスでは、DJI RS 3 Proはカメラを起動し、設定した時間間隔で静止画を撮影し、完了すると自動的に停止します。タイムラプスの撮影時間とフレームレートを設定して、DJI RS 3 Proが必要な画像の正確な数を計算できるようにします。

プッシュモードを有効にすると、ユーザーはタイムラプスを起動する前にパン軸とチルト軸を手動で調整できます。DJI RS 3 Proを押してカメラの向きを変更し構図を調整できます。仮想ジョイスティックアイコンをタップすると、仮想ジョイスティックでカメラの向きを調整します。

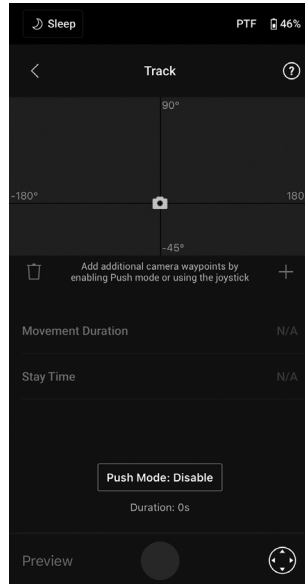
モーションラプスでは、タイムラプス中にカメラを動作するように、最大5点までウェイポイントを設定できます。

ウェイポイントの位置を調整するには、カメラを目的の位置に調整し、+アイコンをタップしてウェイポイントを設定します。仮想ジョイスティックを使用して、パン軸、チルト軸、ロール軸を制御することもできます。

ウェイポイントをさらに追加するには、ジンバルを次のウェイポイントに移動しグリッドマップの上にある「+」アイコンをタップします。その後、ウェイポイントを削除するには、ウェイポイントを選択してから、ゴミ箱アイコンをタップします。ウェイポイントを設定したら、プレビューをタップしてモーションラプスにすべてのポイントが含まれていることを確認するか、シャッター/録画ボタンをタップして撮影を開始します。対応するカメラ制御ケーブルを使用してカメラとジンバルが接続されていることを確認してください。

⚠ タイムラプス中にDJIフォーカスマーター（2022）を使用している場合、ズーム操作に対応していません。

トラッキング



トラッキングは、最大10点までウェイポイントを設定し、動画を撮影するようにします。ユーザーはジンバルを手動で動かすか、仮想ジョイスティックを使用して、ウェイポイントを選択する必要があります。「+」をタップしてウェイポイントを追加します。ウェイポイントを追加すると、ウェイポイント設定画面で時間と滞在時間を設定できます。ウェイポイントの位置をリセットすることもできます。グリッドマップの下の時間パラメーターは、ジンバルが1つのウェイポイントから次のウェイポイントまで移動する際の時間を示します。滞在時間は、次のウェイポイントに移動する前に、ウェイポイントでジンバルがどのくらいの時間静止するかを示します。

⚠ トラッキングの使用中はカメラのシャッターボタンを絶対に押さないでください。

ゲームコントローラー

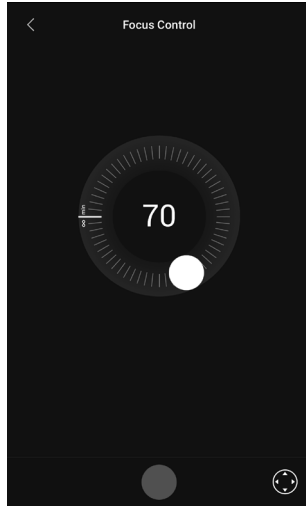


ジンバル&カメラの制御にPS4 DualShockとXboxコントローラーを使用することができます。モバイル端末とジンバルにコントローラーを接続すると、ジンバルの動作/フォーカス/ズームを制御することができ、動画の撮影、ジンバルの再センタリング、写真の撮影ができます。

操作スティックの速度とスムージングを調整することができます。最適な性能を発揮するためには、カメラ設定のフォーカス値を10以内に設定します。iOS 13以降、Android 9.0以降、Roninアプリ v1.4.0以降が必要となります。

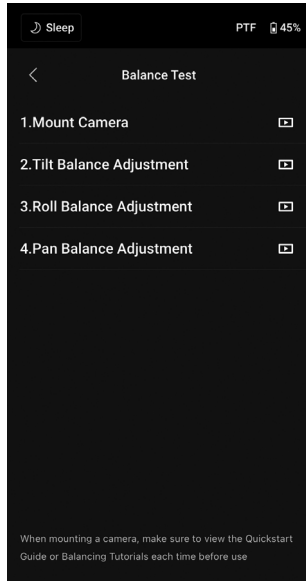
ゲームコントローラーの詳細については[使用方法]をタップします。

フォーカス制御



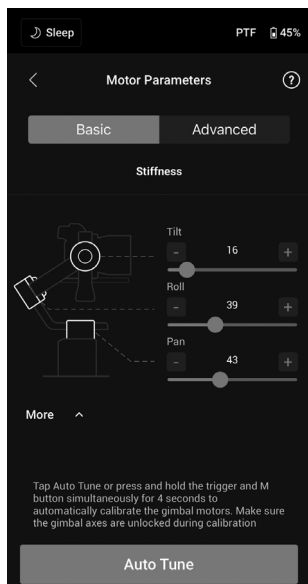
DJI RSフォーカスマーターを取り付けた後、白い点をドラッグしてフォーカスを制御します。0~100の数字は、フォーカスマーターのAとBのエンドポイントを示します。[録画]ボタンをタップして、録画を開始/停止します。[仮想ジョイスティック]アイコンをタップして、ジンバルの動きを制御します。

バランス調整



このページにあるチュートリアルビデオを視聴してください。

モーターパラメーター

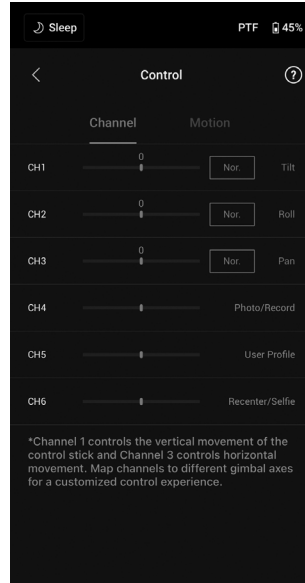
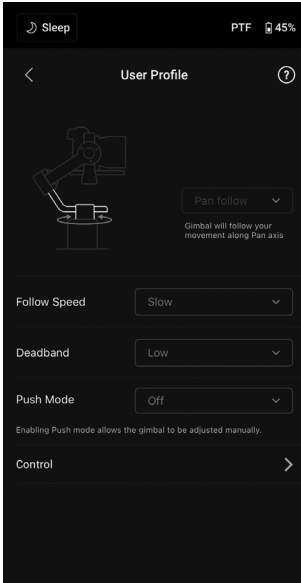


ベーシックメニューとアドバンスメニューがあります。剛性は、ベーシックメニューで表示と調整ができます。さらに、強度はアドバンスメニューで調整できます（必要がある場合のみ、調整してください）。

[オートチューン]をタップすると、DJI RS 3 Proがジンバル設定の重量に基づいて結果を自動的に算出します。

オートチューン後、画面下部に詳細なモーターの診断が表示されます。ジンバルが適切にバランスされている場合は、モーターの電力値が、 ± 5 の範囲になります。特定の軸で消費電力がその範囲を常に超える場合は、ジンバルの機械的バランスを確認する必要があります。

ユーザープロフィール



このページでは、ジンバルモード、フォロー速度、デッドバンド、プッシュモード、ジョイスティック操作の設定ができます。デッドバンドはカメラのパン軸/チルト軸/ロール軸の動きを変換する前に、ジンバルがどの程度の動きを許容するかを決定します。

制御設定

チャンネル

チャンネルインジケーターはリモート操作を構成時にフィードバックを提供します。パン、チルト、およびロールチャンネルを再割り当てでき、各軸を反転させることもできます。「正常」は、動きの方向がジョイスティックと同じであることを意味します。「反転」は、動きの方向がジョイスティックの反対であることを意味します。

ジョイスティックを使用する場合は、デフォルトでチルトおよびパン軸にマッピングされているCH1およびCH3のみを制御できます。画面右側の軸名をタップすると、チャンネルマッピングをカスタマイズできます。

動作

各軸のデッドバンド、最大速度、スムージング、エンドポイントを調整することで、ジョイスティックの制御を設定することができます。各設定には、デフォルトプロフィールが3つ存在します。

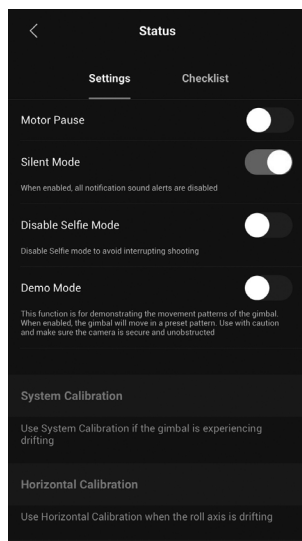
デッドバンド：デッドバンド値を大きくすると、ジンバルの実際の動きへの変換に必要なスティックの動きが大きくなります。

最大速度：リモート制御での回転速度を調整できます。

スムージング：ジンバルの感度を制御できます。

エンドポイント：エンドポイントを設定して、ジンバルの回転範囲を制限します。パン軸にはスリッピングがあり、エンドポイントが180°に設定されている場合にDJI RS 3 Proが連続的に回転できるようにします。チルト軸では、要件に応じてエンドポイントを設定できます。レンズが長いと、ジンバルフレームに当たる場合があります。そうならないよう、エンドポイントの角度を設定してください。

ステータス



設定

モーターの一時停止、サイレントモード、システムキャリブレーション、水平キャリブレーション、ジンバル構成を復元などの設定・操作が行えます。

チェックリスト

Bluetoothとカメラの接続状態を表示します。ジンバルの状態が異常な場合、ここにそのステータス情報が表示されます。

映像伝送

DJI Ronin 映像トランスミッターを取り付けると、Roninアプリのホーム画面で[RavenEyeに接続]をタップして映像伝送機能を使用できます。（※Ronin 映像トランスミッターとRavenEye 映像伝送システムは同一の製品です。名称が変更されました。） 詳細については、DJI Ronin 映像トランスミッターのユーザーガイドを参照してください。

BG30グリップおよび内蔵バッテリー

BG30グリップは手持ち用で使用します。グリップに内蔵されたバッテリーの容量は1950 mAhで、最大駆動時間は12時間です。

安全ガイドライン

本製品の関連資料では、以下の用語で製品操作時に起こりうる危険のレベルを示します。

警告 正しい手順に従わない場合、物的損害や巻き添え事故、重大な人身事故の可能性があるほか、高い確率で軽傷を負う可能性があります。

注記 正しい手順に従わない場合、物的損害が発生する可能性があります。負傷の可能性は全くないが、あってもごく軽微です。



警告

ユーザーマニュアルをよく読んで機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を正しく操作しないと、本製品や個人の財産の損害や重傷を引き起こすおそれがあります。本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識を持った操作とともに、基本的な機械知識が求められます。本製品を安全かつ責任を持って操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。

本製品は、大人の監督下にお子様の使用を想定していません。互換性のない部品を使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTDが提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用の前に、ユーザーマニュアルに記載されている手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

火災、重傷、物的損害を避けるため、グリップの使用、充電、保管時には、以下の安全ガイドラインを順守してください。



警告

グリップの使用

- グリップはいかなる液体類にも触れないようにしてください。グリップを雨にさらしたり、湿気の多い場所に放置したりしないでください。グリップを水に入れないでください。バッテリー内に水分が入ると、化学分解が発生し、バッテリーが発火したり、爆発につながったりするおそれがあります。
- グリップが誤って水中に落ちた場合は、グリップをすぐに安全な開けた場所に置いてください。完全に乾燥するまで、グリップから安全な距離を保ってください。そのグリップは以後使用せず、「グリップの廃棄」の記載に従って、適切にグリップを廃棄してください。
- 水、砂、消火用毛布、あるいは乾燥粉末消火剤を使って消火してください。
- DJI製以外のバッテリーは使用しないでください。新しいバッテリーを購入するには、www.dji.com にアクセスしてください。DJI以外のバッテリーに起因する損害に対して、DJIは一切責任を負いません。

5. グリップに膨張、漏れ、損傷がある場合は使用しないでください。グリップに異常がある場合は、DJIまたはDJIの正規代理店にご連絡ください。
6. グリップは-20℃～45℃の温度範囲で使用してください。50℃を超える環境でグリップを使用すると、火災や爆発につながるおそれがあります。-10℃以下でグリップを使用すると、回復不能な損傷につながる可能性があります。
7. 強い静電環境や電磁環境でグリップを使用しないでください。そのような環境では、バッテリーの制御盤が誤作動する恐れがあります。
8. いかなる方法でもグリップを分解したり穴をあけたりしないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。
9. バッテリーを落下させたり、叩いたりしないでください。グリップの上に重量のある物を置かないでください。
10. バッテリーの電解液には非常に高い腐食性があります。電解液が皮膚に触れたり、眼に入った場合には、ただちに流水で15分以上洗い流してから、すぐに医師の診察を受けてください。
11. 落下した場合は、グリップを使用しないでください。
12. バッテリーを加熱しないでください。電子レンジや高压容器内にグリップを入れしないでください。
13. 手でグリップを短絡させないでください。
14. 清潔な乾いた布でグリップ端子を清掃してください。

グリップの充電

1. 充電中にグリップを放置しないでください。可燃物の近くやカーペット、木などの燃えやすい物の上でグリップを充電しないでください。
2. グリップを5℃～40℃の温度範囲外で充電すると、漏れ、過熱、バッテリーの損傷に至るおそれがあります。推奨する充電温度は22℃～28℃です。

グリップの保管

1. グリップはお子様やペットの手の届かないところに保管してください。
2. グリップを長期間保管する場合は、バッテリー残量が30%～50%になるまでグリップを充電してください。
3. 暖炉やヒーターなどの熱源の近くにグリップを放置しないでください。暑い日にグリップを自動車内に放置しないでください。推奨する保管環境温度は22℃～28℃です。
4. グリップを乾いた状態で保管してください。

グリップのメンテナンス

1. 極端な高温や低温でグリップを使用しないでください。
2. バッテリーは、45℃を超える高温環境および0℃以下の低温環境で保管しないでください。

移動時の注意事項

1. グリップを航空機に持ち込む場合は、あらかじめ放電してバッテリー残量を30%未満にしておく必要があります。グリップは耐火性の場所でのみ放電し、通気性の高い場所で保管してください。
2. グリップを眼鏡、時計、宝飾品、ヘアピンなどの金属に近づけないでください。
3. 損傷したグリップや、バッテリー残量が30%を超えるグリップを搬送しないでください。

グリップの廃棄

完全に放電してから、指定のリサイクルボックスに入れてグリップを廃棄してください。通常のゴミ容器にグリップを入れないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

注記

グリップの使用

1. 使用前にグリップが完全に充電されていることを確認してください。
2. ローバッテリー警告が表示されたら、できるだけすぐにグリップの充電を行ってください。

グリップの充電

1. グリップは、完全に充電されると充電を停止する設計になっています。ただし、充電の進捗状況を監視し、完全に充電したらグリップの接続を取り外すことをお勧めします。

グリップの保管

1. グリップを10日以上使用しない場合は、40~65%までグリップを放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。
2. グリップが長期間保管されバッテリーが消耗すると、グリップはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するにはグリップを再充電します。
3. 長期間保管する場合には、ジンバルからグリップを取り外してください。

グリップのメンテナンス

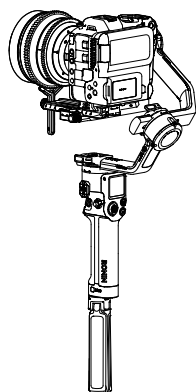
1. 長期間使用しないと、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
2. グリップを良好な状態に保つために、3ヵ月に1回はグリップを完全に放電したあとに完全に充電してください。

グリップの廃棄

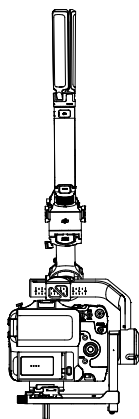
1. グリップが不能になり、バッテリーを完全に放電できない場合は、電池の廃棄またはリサイクル業者に問い合わせ、サポートを受けてください。
2. グリップの過放電後、電源が入らない場合は、すぐにグリップを廃棄してください。

操作モード

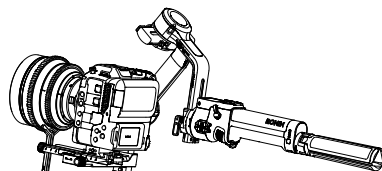
DJI RS 3 Proには、次の4種類の操作モードが存在します：アップライト、吊り下げ、ペンライト、ブリーフケース。



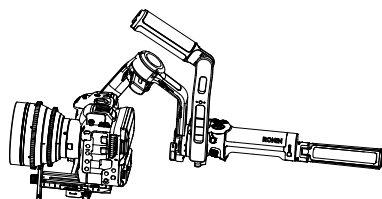
アップライトモード



吊り下げモード



ペンライトモード



ブリーフケースモード

メンテナンス

DJI RS 3 Proは防水ではありません。使用中は埃や水から保護してください。使用後はDJI RS 3 Proを乾いた柔らかい布で拭いてきれいにするをお勧めします。DJI RS 3 Proに洗浄液を吹きつけないでください。

仕様

周辺機器	アクセサリポート	RSA/NATO ポート 1/4-20 取り付け穴 コールドシュー 映像伝送/LiDARレンジファインダーポート (USB-C) RSSカメラ制御ポート (USB-C) フォーカスマーター ポート (USB-C)
	バッテリー	モデル：BG30-1950 mAh-15.4V タイプ：LiPo 4S 容量：1950 mAh 電力量：30 Wh 最大動作時間：12時間（機材が水平に静置され、ジンバルのバランスが取れ、3軸がアクティブ状態で、バッテリーのみでジンバルに電源供給している時に測定） 充電時間：約1.5時間（24 W充電器を使用時。QC 2.0、もしくはPD急速充電プロトコルに対応した充電器の使用を推奨します） 推奨充電温度範囲：5°C～40°C
	接続	Bluetooth 5.0 充電ポート (USB-C)
	Ronin アプリの要件	iOS 11.0以降 Android 7.0以降
	タッチ画面 対応言語	英語、簡体中国語、繁体中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語、日本語、スペイン語、ポルトガル語（ブラジル）、ロシア語、タイ語
動作性能	積載量（試験値）	4.5 kg
	制御可能最大回転速度	パン：360° /s チルト：360° /s ロール：360° /s
	機械的可動範囲	パン軸：360° 連続回転 ロール軸：-95° ～ +240° チルト軸：-112° ～ +214°
機械的および電気的特性	動作周波数	2.4000～2.4835 GHz
	Bluetooth伝送電力	<8 dBm
	動作環境温度	-20° C～45° C
	重量	ジンバル：約1143 g グリップ：約265 g 延長用グリップ/三脚（金属製）：約226 g 上部および下部クイックリリース プレート：約107 g
	サイズ	折りたたんだ状態：268×276×68 mm（長さ×幅×高さ。カメラと延長用グリップ/三脚を除く） 展開状態：415×218×195 mm（長さ×幅×高さ。高さには、グリップを含み、延長用グリップ/三脚を除く）

お問い合わせはコチラ



連絡先
DJI サポート

本内容は変更されることがあります。
最新版は下記よりダウンロードしてください



www.dji.com/rs-3-pro/downloads

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信してDJIまでお問い合わせください。DocSupport@dji.com

DJIは、DJIの商標です。

Copyright © 2022 DJI All Rights Reserved.